



道頓堀リバーフェスティバル

第10回「特別記念」

関西演芸しゃべくり話芸大賞

マイク一本で
勝負やでっ!

実施
概要



開催主旨

「話芸とは、会話のおもしろさと言葉のおもしろさを磨き、芸にしたもの」
関西演芸推進協議会主催による第10回の賞レース。
予選を勝ち抜いた10組による大会本選で関西演芸しゃべくり話芸大賞を決定します。

政府の緊急事態宣言の発令や大阪府の対応により無観客等、変更の場合があります。

開催日時 会場	予選会場	令和3年9月11日(土)・12日(日) 12時~20時(予定) 道頓堀ZAZA POCKET'S (会場定員50名) 大阪市中央区道頓堀1-7-21 中座くいだおれビル地下1階 (TEL:06-6212-3005)
	優勝決定戦会場	令和3年10月16日(土) 14時~17時 YES THEATER (会場定員326名) 大阪市中央区難波千日前11-6 なんばグランド花月ビル (TEL:06-6630-0220)
参加資格	プロ・アマ・年齢問わず(18歳未満の方は親権者の同意を得てください)	
演目	話芸(漫才・漫談・スタンダップコメディetc) マイク一本で勝負できる芸	
審査方法	① 持ち時間は予選4分、優勝決定戦7分 ② 審査基準は、「もう一度聞きたい!」と思わせるかなどを総合して審査します。	
本選審査員	・大池晶(漫才作家) ・本多正識(漫才作家) ・林千代(シナリオライター) ・乾龍介(フリーアナウンサー) ・中井政嗣(関西演芸推進協議会 専務理事) 予定 順不同 (予選は、関西演芸推進協議会 関西演芸しゃべくり話芸大賞実行委員会により審査します。)	
表彰	しゃべくり話芸大賞 1組(賞金300,000円+設立15周年記念賞金200,000円+10/17道頓堀リバーフェスティバルステージ出演予定) 準グランプリ 1組(賞金100,000円) 特別賞 数組(賞品) ※優勝決定戦を動画配信・ラジオ放送(予定)	
参加費	2,000円 令和3年7月31日までに指定口座に入金。もしくは電話確認の上、事務局まで。	
参加方法	① 別紙エントリーシートにご記入の上、ご郵送をお願い致します。※先着250組 ② 参加費のお振り込み	

募集期間 令和3年7月15日~令和3年7月31日 必着

※「協議会設立15周年記念特別企画」として動画部門を設けます。詳しくはHPでご確認ください。(エントリー金1,000円)

主催:NPO法人 関西演芸推進協議会

〒556-0017大阪市浪速区湊町2丁目2番45号オンテックス難波ビル7階

千房(株)内「関西演芸しゃべくり話芸大賞」係 担当:重光

TEL:06-6633-1430 FAX:06-6633-1435

http://www.walive.org E-mail: info@walive.org 関西演芸しゃべくり話芸大賞実行委員会



道頓堀リバーフェスティバル

第10回「特別記念」関西演芸しゃべくり話芸大賞

面白いものは百年経っても面白い!良いものは百年を越えて残る!
そんな「関西のしゃべくり話芸」を今見つけたい!

「第10回関西演芸しゃべくり話芸大賞」を開催いたします。

漫才、コント、漫談、浪曲、講談…プロアマ、形式や人数には一切こだわりません。

ルールはたったひとつ「マイク一本で勝負できること」

笑いの基本話芸を極めるこの大会から
未来のお笑い界の担い手が現われるのは
間違いないと思います。
熱い戦いを期待しています。

大池 晶 (漫才作家)

話芸の極意は内容のある話しをスピードと間で
進め加えてフレッシュさと笑いに対する熱意。
ネタに共感が感じられればお客様は満足する。
笑いの創意・工夫を尊重し合い競って欲しい。

林 千代 (シナリオライター)

どんなにおもしろいネタであっても、
きちんと伝わらなければ笑いには
つながりません。
お客さんに、しっかりと
「言葉」が伝わるよう、届けられるよう、
稽古に励んで下さい!

本多 正識 (漫才作家)

審査員の方からの
メッセージです

精一杯表現される「話芸」の面白いを期待して
います。それは、天才か素質か努力なのか。
秘めた可能性を全力で発揮されますこと楽し
みにしています。

中井 政嗣 (関西演芸推進協議会 専務理事)

日本人ほど笑いを大切にしなければ。。
天照大神は、外の笑い声が気になりそっと天
岩戸を開けました。そのお陰でまた世の中が
明るくなったのです。日本は「笑い」で救われ
たのです。笑いを生み出す話芸は日本を救う。
ちょっとオーバーですが。

乾 龍介 (フリーアナウンサー)

演芸の原点は「お話し」

私達関西演芸推進協議会は安易なギャグに頼らない笑い、心地のよい語りを見つけだし、
言葉の力、話の魅力、話芸の素晴らしさを伝え残したいと考え、活動を続けています。